

19 (明治9年) 9月24日 板垣政徳・波岡茂元

秋冷日々相催候処御安静御勉強候何より之御事奉賀候英公雄公御事は万事御厚志之御世話感涙此事奉存候陳者十一月九日付なミへ托し郵便を以申上候筈無御抛御次第に付 雄公にハ御帰朝之事 橋場公小石川公も御呈書私共よりも君まで委細申上候筈今頃ハ御発港にも被為成候なと奉存候其節申上候筈四月千弗送上候内御縁合に而八百弗ハ此度御帰朝に付諸御遣御路費ニ万端に而送上候事ニ申上候筈今般桑港郵便船ニ托し右金員八百弗為替取組差上候間御請取夫々御始末被成下度尤公私富田氏へも

托し遣候間右之御願談等不都無御座候様御取計迄此度願上候英
公御儀ハ何れにも御氣付られ被下愈御□励御出精ニ相成候様奉
禱候処ニ 從五位様より之御呈書ハ御上被成候処右条々何分に
も宜敷御取計被成候段奉願候時下折角御励勉学御專要奉禱候頓
首

九月廿四日

板垣政徳

波岡茂元

菊池武夫君

二白本文八百弗為替之儀ハ富田氏へ委細転送候間右御金に而
御取計被成下度山本工藤事ハ去月盛岡へ下り来年迄ハ上京不
致積ニ御座候事

(封筒表)

「 波岡茂元

菊池武夫様

板垣政徳

「 要用